

I 実践

1 研究主題 人権を尊重する環境づくり

2 主題設定の理由

本校は「一人一人が夢をもち 心豊かに自ら学ぶ たくましい児童の育成」を教育目標として掲げている。それを受けて人権教育では「思いやりと感謝の気持ちを基盤とした人権尊重の精神を育てる」ことを目標としている。

そこで、学習と各種行事を中心とした人権尊重について考える場の設定をすることで、児童に思いやりと感謝の気持ちを育てたいと考え、本主題を設定した。

3 研究内容

- (1) 人権教育の視点での学習環境づくり
- (2) 人権尊重の視点での生活環境づくり

4 実践内容

(1) 人権教育の視点での学習活動づくり

ア 福祉体験学習

5 学年児童が総合的な学習の時間に、体験学習を行った。視覚障害者体験や車椅子体験・高齢者体験・聴覚障害者体験を行った。福祉体験を通して、体が不自由な人にとっては、不便な場所が多いことや体の不自由な人の大変さだけでなく、介護する方の変さも理解したようだった。

また、友達の手や声の支えが、心の安定になったことをたくさんの児童が感想として書いていた。

「ひじがまげられず、細かい作業がとてもやりにくいなと思いました。階段を降りるのが、とてもこわかったです。介助のときは何をやるのかしっかり教えることが相手には必要なのだと思いました。大丈夫だよと言ってもらって安心しました。」

(高齢者体験の感想より)



イ 「人権メッセージ」の取組

「人権メッセージ」は、5、6 年生が道德の時間を活用して作品作りを行った。

☆人権について考えるための「道德の時間」の手立て

1 主体的に深く考える

- ①自分事・切実感 あなたならどうしますか→どうしてそうするのですか
- ②人の意見が聞きたくなる発問（ぼくはこう思う、みんなはどうだろう）
- ③成功体験（考える意義を実感する）考える人が大切にされる。思いを受け止める。

2 自分の立場を明確にする（心のものさし・円グラフ・ネームカード）

3 語り合い…自分の思いを言葉化する。本音で話す。なぜ？だって！あのね。

※語り合うための基本は、聴く姿勢と安心して話せる環境

4 教師も共に学ぶ。

教師より道德性の高い児童は存在する。教師も、できない弱い自分を時には表現し、「本当にできるだろうか？先生はできないかもしれない。」等の問い返し。

先生の「相手に言う言葉は自分にも返ってくる」という説話から、「言葉」の大切さに気付き、感情を動かす言葉について考える児童など、一人一人が日常生活の中の自分を見つめる機会となった。

(2) 人権尊重の視点での生活環境づくり

ア 異学年集団の交流

ハッピータイム(1～6 年・縦割り班活動)

本校では、縦割り班活動として「ハッピータイム」を設定している。6 年がリーダーとなり、低学年と一緒に遊ぶ中でお互いの関わり方を学ぶものである。遊んでいる最中に遊び方が分からなくなったり、友達とトラブルが発生したりしたときも、高学年の児童が説明したり、話を聞いたりして、お互いが思いやりをもてるようにしている。



イ 人権集会「いじめ・差別ノックアウトフォーラム」（２月に実施）

- 1 ねらい
 - ・差別に関する話を聞く活動を通して、いじめの愚かさを理解し、差別や不正な言動を許さない態度を育てる。
 - ・学級ごとに考えた人権メッセージを伝え合うことによって、仲間としての連帯感や自他を尊重する態度を育てる。
- 2 期 日 令和４年 ２月 青空タイム（１３：０５～１３：３５）
- 3 場 所 豊浦小学校 校長室 / 各教室（オンライン）
- 4 内 容
 - (１) 児童集会：司会・進行 J R C 委員会
 - ① はじめの言葉
 - ② 「わたしのクラスの行動宣言」発表（各クラス１名）
 - ③ 差別に関するお話（パワーポイント）
 - ④ J R C 委員長からメッセージ（E S D、S D G s の説明）
 - ⑤ 「世界が一つになるまで」合唱
 - ⑥ 校長先生の話
 - ⑦ おわりの言葉
 - (２) 事前準備
 - ・担任による読み聞かせ
いじめ、人権に関する絵本や紙芝居（とべないほたる）
 - ・人権メッセージ「わたしのクラスの行動宣言」づくり
短冊→読み聞かせをもとに願いを短冊に書き、各クラス１名発表者を決める。
 - ・歌「世界が一つになるまで」の練習
１・２年生は、朝自習の時間に J R C 委員とともに練習。
 - (３) 事後指導
 - ・振り返り
用紙に振り返りと感想を記入。くろしおノートの学級活動のページに貼る。
 - ・各学級の短冊を各階テラスに掲示。



5 成果

- (１) 総合的な学習の時間や道徳の取組を通して、家族や友達などに支えられていることを再認識し、思いやりや感謝の気持ちをもつことの大切さに気付くことができた。
- (２) 人権集会に向けて、差別、障害、いじめがテーマの本の読み聞かせをしたり、「世界がひとつになるまで」を全校児童が歌ったりすることで、事前に様々な視点から人権の尊重について考えることができた。
- (３) 人権集会では、差別やいじめだけでなく、「S D G s 17の目標」の取組について説明することで、広い視野で思いやり、助け合いについて考える気持ちが育てていく。



Ⅱ 今後の課題

- (１) 今後も人権教育の視点での教育活動を継続する。
- (２) 人権に関する理解と認識を高め、指導力向上を図ることをねらいとした職員研修の充実
- (３) 家庭や地域と連携した啓発活動の推進

Ⅲ 人権コーナー設置の様子

人権コーナーには、J R C 委員会のキヤッチコピーや人権に関するカレンダーを掲示している。

各階のテラスには、人権集会で考えた「わたしのクラスの行動宣言」を掲示し、集会後も人権について一人一人が意識できるように工夫している。

